

# あすか

Vol.26



発行 平成23年(2011年)10月27日  
特定非営利活動法人(NPO法人)まほろば教育事業団  
〒150-0047 東京都渋谷区神山町 24-11-202  
TEL 03-3485-6554 FAX03-6912-1720  
<http://www.mahoroba-ed.org/>

## 美しい日本の心を青少年に!

### 今月の言葉

秋来ぬと目にはさやかに見えねども風の音にぞおどろかれぬる  
藤原敏行

万巻の書を読むにあらざるよりは、  
いづくんぞ千秋の人たるを得ん  
吉田松陰



福島の子供たちへ手作りの凧を送る(首都圏まほろば合宿)



高校生友の会「呉竹」が石巻ボランティアへ  
(日本を美しくする会の皆様と共に)

### 今月の目次

- 高校生友の会「呉竹」が石巻復興支援ボランティアに参加
- 夏のまほろば合宿報告(四国)
- 近畿まほろばの会収穫祭
- まほろば合宿の感化力を実感して  
—保護者からの声

## 「石巻での清掃奉仕に学んだこと」

～兵庫、愛媛、佐賀から四名が参加

### はじめに

九月二十三日～二十五日にかけて、夏の中高生セミナーの学びを胸に、兵庫・愛媛・佐賀から中高生が集い、「呉竹奉仕団」を結成して、六月の活動に続き、宮城県石巻市でのボランティア活動に参加して参りました。「日本を美しくする会」の方々と共に行い、今まで避難所として利用されてきた鹿妻（かづま）小学校の体育館（六月に皆さんから寄せられた千羽鶴と和歌集を届けた所です）を、元の体育館として利用できるように戻すための掃除となりました。

避難所のボランティア本部長をつとめられた浅野仁美さんの「目標は、もとあった状態より綺麗にして、早くこの体育館を学校側に明け渡すことです！」との言葉で始まった清掃奉仕。どれほどこの日が来ることを待ちわび、信じ、支え合って来られたのだろうか、言葉から拝察しました。浅野さんに応えたい一心で「お疲れ様、ありがとう」と念じつつ掃除をさせて頂きました。

今回の活動は、ただの掃除ではなく、避難所生活から、仮設住宅生活へ、学校では体育館での授業の再開など、それぞれが

復興に向けた一步を踏み出す為の支援になったとても意義深い活動となりました。

石巻での尊い出会いは、これからの日本の復興の要となる若い中高生にとつて、自分の生き方が省みさせられた、貴重な体験となりました。佐賀から参加した徳村麻留実さんは、早速ホームルームの中でボランティア体験を語るプレゼンテーションを行い、同級生たちも涙を浮かべつつ、徳村さんの話に聞き入ったそうです。それぞれが現場に戻り、学校や友人たちに自らの言葉で体験を語り、社会や国のために力いっぱい生きることの大切さを共にしてほしいと切に願います。

（前田）

### 参加者の感想文より

「ボランティアで培った志を胸に

次代を担う若者になろう!」

佐賀県 龍谷高校二年 徳村麻留実

三月十一日、東北・関東を襲った東日本大震災。テレビや新聞でみたあの何とも言えない凄まじい光景は今でも目に焼きついている。被災者の方たちを助けたい。私はそう思い義援金を集めたり折り鶴を折ったり自分にできることをやった。しかし何か物足りない。「もっともっと出来ることがあるはずだ」と思った時



にボランティアに誘われた。私は迷わず「行きます！」と伝えた。私は佐賀県出身で、宮城に行くために一日前には佐賀を出発しなければならなかった。それで学校の担任の先生が、早退欠席を派遣扱いにして下さり使命を持って宮城へ向かった。



今回私たちが行ったボランティアは、鹿妻小学校の体育館の清掃だった。ブルーシートと畳が体育館全部に敷いてあって、それをとって床を磨いた。半年間の思いが詰まったこの体育館を掃除できたことは私に何か素晴らしいエネルギーを与えてくれたような気がしてならなかった。最初はボーっと私たちがそうじをしているのを見

ていた被災者の方たちも少しずつ掃除を手伝ってくれて、みんなが一つになって小学校を綺麗にすることができた。

私は、被災された丹野久美子さんという一人の女性と出会った。久美子さんは涙ながらに私たちに当時



の話をして下さった。「ボランティアに来てくれる人がいるのが私の生き甲斐。ほんとにありがとう。こんなに幸せならもう死んでもいいよ」と言われ、私は心の底から遠くからきた甲斐があったと実感することができ、とても温かい気持ちになった。あの時の久美子さんの顔は今でもはつきりと頭に浮かんでくる。

私が一番印象深かったのが、被害が一番ひどかったと思われる大川小学校に行ったことだ。大川小学校は、海沿いに面しており、あの光景を見たときは言葉も出なかった。先生や子供たちはどんな思いでこの世を去ったのだろう。みんなには家族もいた。家族の気持ちを考えると私は胸が痛くなり、涙が止まらなかった。清家さんが出発前の結団式で「瓦礫の中にはみんなが使っていたものがたくさんあってたくさん思い出がつまっていた。だから瓦礫と呼べなくなった」とおっしゃっていた。私はその言葉を思い出し、瓦礫を見たら、生活用品や洋服、家具などがたくさん目に入り、清家さんの言葉の意味をかみしめた。

夜には、自分も被災者でありながら、鹿妻小学校避難所のリー



ダーである浅野さんの話をきく機会を得た。浅野さんの言葉で一番心に残っているのは、「こういう状況に置かれたときに①家族との絆②人とのつながりというものが試される。」という言葉だ。家族とどこまでつながっていいのか、

他の人とどこまでつながっていいのか。浅野さんが言われる一つの言葉が私にはとてもすばらしく感じられた。「学校と地域社会とが一体化し、お互いに学ぶことがたくさんある。人と人との寄り添いがなかったらどこまで来れなかった」とも言われていた。被災された方にしか分からない気持ちや思いがひしひしと伝わってきたこのボランティア。だからこそ経験して良かったと心から思っている。自分の使命を十分に発揮できた。

佐賀に戻ってきたら、やっぱり落ち着いた。しかし無性に悲しくなった。こんなに幸せでいいのだろうか。こんな生活をしていいのだろうか。私は現代を生きる若者であり、この世を背負わなければならぬ一人でもある。この世を変えるのには一人では無理だ。みんなの力でこの世を変えなければいけない。しかし、周りを見てもみんな平和ボケしている。今の世の中をまともに知っているのは何人だろうか。当たり前のことをできない。当たり前なののできない。当たり前のことなのに感謝できない。最低限すべきことだろう。幸せだなど改めて感じた今日この頃、被災地に行って忘れかけていたものを取り戻すことが出来た。

今の私たちには何ができるか、私も含め今の若者の担う課題がたくさんあるが、本当に大切にすべきものの根本をもう一度みつめなおし、このボランティアで得たたくさんの方のことを生かして人生を輝かせていきたい。

【産経新聞の談話室・十代の声の欄に、「呉竹」サブリーダーの越智祥恵さんの投稿が掲載されました。(十月二十四日付)】

## 10代の声

### 多くを学んだボランティア

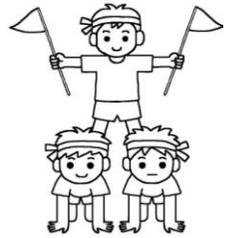
高校生 越智祥恵 16

先月、宮城県石巻市で、NPOのボランティア活動に参加した。活動は主に避難所の清掃。床にごびりついた真っ黒な泥をひたすら歯ブラシで磨き、きれいになった床を見ると達成感があった。最初は眺めていた被災者の方々も手伝ってくれ、すごくうれしかった。

しかし、一つだけつらいことがあった。それは食事。3日間ずっと、コンビニで買ったものだったのでも、気持ち悪くなってしまった。ふと、母のつくった炊き、ありがとございます。(愛媛県西条市)

被災地の方々に「来てくれてありがとう」と言われ、励ましに来たつもりが逆に励まされた。離れていても同じ空の下で一緒に頑張っているという約束した。こうした機会をいただき、ありがとございます。

# 夏の合宿の報告



## 四国まほろば合宿

### 「尾藤二洲先生に学ぼう！美しい日本の心」

期間 八月六日(土)～八日(月)

場所 愛媛県四国中央市

運営委員長 山崎文雄

八月六日より八日まで、四国中央市新宮少年自然の家で夏季四国まほろば小学生合宿が開催されました。「尾藤二洲先生に学ぼう！美しい日本の心」をテーマに行われ、四国から小学生が約二十名参加しました。

尾藤二洲先生は川之江出身の儒学者で江戸時代、昌平黌の教官を二十一年勤められ、寛政の三博士の一人と言われました。尊皇のお気持ち

の篤い方で、頼春水と深い親交をもち姻戚関係を結び、その子・頼山陽は甥であり弟子でした。

合宿では子供達と「座右十戒」などの二洲先生のお言葉を素読、暗唱をしました。野外研修では、尾藤二洲先生ゆかりの地の史跡めぐりを行い、地元の名士・真鍋家第十六代当主の真鍋潤先生がご同行、ご説明下さいました。

早朝行事は、新宮の熊野神社を参拝。田邊宮司様が教育勅語について御講義くださいました。

川遊び、スイカ割り、カルタ取り、バーベキューなども行いました。この参加者から、将来の日本を背負って立つ人物が出ることを心より願っております。

### 子供たちの感想文より

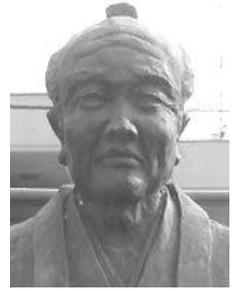


小学五年 女子

山崎先生の、三月十一日の、日本人の話がとても心に残りました。人を助けるために自分をぎせいにすることができる人が、何人もいるなんて、本当に日本人ってすごいな、と思いました。

二洲先生の座右十戒の「心は一事を主とせよ。二三なるべからず。」は、私の生活の中にも生かすことができるかと思いましたが、あわてていくつもせず、一つの事に集中してやるようにしたいと思いました。





尾藤二洲先生

中学一年 女子

野外活動で二洲先生のゆかりの地を歩きました。話を聞くと、二洲先生は足が不自由だったそうです。でもそれを乗り越えて私たちにすばらしい教えを残してくれました。

◆◆創作和歌◆◆

小学二年 女子

すいかわりむねがどきどきわれなかつた  
みんなでわったすいかはおいしい

小学五年 女子

尾とう先生足がふじゆうなのにかんばるな  
ほくもかんばり学ばなきや

中学一年 女子

足の不自由乗り越え朱子の教えをば  
世に伝ふなり二洲先生

近畿まほろばの会・収穫祭



去る十月十六日、お芋の収穫祭を行いました。夏のまほろば合宿に参加したクラスの教え子や子供達も集まり、秋晴れの下、楽しくお芋ほりを行い、和歌を五十首も詠んだ子供もいました。感動いっぱいだった和歌の中から紹介させて頂きます。(吉田)

小学二年 女子

おいもほりあかいかおがねみえてくる  
はやくほりたいでもほれない  
おいもほりぐりぐりおいもまわすとね  
すぐにでてくるきれいなおいも  
みんなだねほったおいもはおいしそう  
ぜったいあまいとけつていなんだ  
おやつをねみんなでたべるとおいしいね  
て作りだからよけいおいしい  
みんなだねたべるようかんまつ茶もね  
すぐおいしいほっぺがおちる  
畑でねばったいっぱいみつけたよ  
大きいのか小さいのか  
おいもほりつるがあるとこほつたらね  
いっぱいできてきておいしそう  
おまつ茶はれいぎ正しくないね  
きまりとどうぐいっぱいだった  
畑のねいもとりにいってき  
土をはらってふくろにいれて

まほろば合宿の感化力を実感して

神奈川 早田保美【早田悠人(小六) 母】

息子が五歳の時、第一回首都圏まほろば合宿で、吉田松陰先生の劇を見ました。なぜか、涙が出てきて、感動したそうです。その時いただいたメダルに【吉田松陰先生の劇に感動したで賞】とあり、喜んで、わが家の和室に何年も飾っていました。

首都圏まほろば合宿は、毎年、テーマにそって歴史人物が決定

されます。お話や、先生方の劇、歴史を体験する散策やゲーム、和歌の暗唱など、体と心を十分に使いながらの楽しいプログラムです。息子も、「今年のまほろばは、誰の勉強かな？」と、毎年、興味を持つようになりました。第三回の尊徳記念館での、二宮尊徳の学びは、現地の歴史巡りもあり、とても心に響いたようでお誕生日のプレゼントには、歴史人物の本が沢山欲しいとねだりました。それから、私が仕事から帰るまでの夕方の時間、歴史の本の世界の中で、楽しんでいたようです。歴史の出来事や、人物についての詳しいエピソードなど、大人の知らないことまで話してくれるようになり、小さな子どもも吸収力に、驚かされました。

五年の夏休みの社会科自由研究では、【日本の歴史と天皇】をテーマに、模造紙三枚にまとめました。日本の歴史を見ていくと、どこにでも天皇のご存在があることに気付いて、日本の歴史と天皇様のつながりについて、調べたくなつたそうです。一二五代というあまりの歴史の長さを前に、それはそれは大変な作業であったことに気付いたようですが、稚拙ながらも何とか自力で頑張つて、年表にまとめました。

そして、六年生。最後の第七回まほろば合宿…。東日本大震災に遭遇した今年、公の為に人生を捧げた濱口悟稜の生き方を学び、東北の人々への思いを込めて【絆】という字をみんなで書いた大凧を作りました。まほろば合宿から帰ってから早速、「ぼくのふるさと新発見」というテーマで、社会科の自由研究に取り組み、【絆】の大凧づくり体験から、自分のふるさとについて調べたこ

と考えたことをまとめました。これは、有り難いことに、市の社会科作品展に、学校の代表で出品されることになり、小学生最後のいい思い出となりました。

家で、読み聞かせはしていたのですが、日常生活の中では、なかなか歴史のおもしろさを伝えるには難しいものがありました。『感動・発見・挑戦』をモチーフに練り広げられる、あの合宿のプログラムの中でこそ、伝わるもの、感得出来るものがあると、我が子の姿を通してしみじみと感じさせられています。

また、今年は、国弘昭義先生にご出講いただき、自分のいのちの根源、父母やご先祖様に感謝する事を教えていただきました。二宮尊徳の、「父母もその父母も我が身なり我を愛せよ我を敬せよ」のお歌の真髓について教えていただきました。第三回の二宮尊徳の勉強のとき、すでに暗唱していたお歌でしたが、国弘先生のお話に、強く心を動かされたようです。まほろば合宿から帰つたその日、お風呂に入ってきて、私の背中を「ごしごし洗ってくれ、びっくりしました。夏の終わりごろ、私と主人の机の上に、息子からの和歌が置いてあり、「ありがとう」のことがしたためられていました。

まほろば合宿の卒業式。息子が読んだ答辞の中の、『お父さんありがとうございます。お母さんありがとうございます。』『大いなるものの為に生きるとき大きな力が生まれることを学びました』という言葉は、まほろば合宿で学ばせて頂いたことの全てが詰まっていたように思います。

両親共働きの、日々ドタバタの我が家で、息子には何も与えてあげられなかったと、母として反省ばかりですが、まほろば合宿に毎年参加させていただいたことで、大切な心の核となるものを学ばせていただいたと、感謝でいっぱいです。長年、温かい目で、見守り育てて下さった首都圏運営委員の皆様に、心より感謝申し上げます。ありがとうございます。

合宿終了後、風をお送りした福島の子供たちが、大変喜んでくれたという報告のお電話を頂きました。

## 冬季中高生セミナーのお知らせ

「志高く、夢を描こう！」

～吉田松陰先生に学ぶ～

**日時** 十二月二十四日(土)～二十五日(日)

(集合 十三時 解散 十二時)

**場所** 赤間神宮(山口県下関市)

**講師** 寺井一郎先生(小1～中3の児童に每晚朗読指導をおこなわれている先生です)

「ご先祖様や先人の方々への感謝とご供養を込めて一文字一文字、心を込めて朗読し、続けるうちに自らの魂に灯がともります。」

**内容** 吉田松陰先生の言葉を刻む、友との交流

**参加費** 八千円(兄弟参加は二人目以降七千円)

**定員** 二十名 **申込締切** 十一月三十日

※連絡先 [info@mahoroba-ed.org](mailto:info@mahoroba-ed.org) (前田)

お申し込みの方には、詳しいプログラム・持ち物・交通について連絡致します。

## ◇行事案内◇

### 神奈川教育研修会

— 教育の現状とまほろば教育事業団の教育事業の提唱

**日時** 十二月十一日(日) 十六時～

(会場) 伊勢山皇大神宮 記念館二階 開明の間 横浜市西区宮崎町六四

**講師** 高橋史郎先生

※連絡先 [info@mahoroba-ed.org](mailto:info@mahoroba-ed.org) (清家)



### 広島まほろばの会・素読の集い

#### 【広島教室】

**日時** 十一月二十七日(日) 十時～十二時五十分

(会場) 広島市安芸区民センター 広島市安芸区船越三二一十六

**参加費** 千円 **定員** 六十名 **申込締切** 十一月二十六日十八時

#### 【福山教室】

**日時** 十一月十三日(日)

十時～十一時四十分

(会場) ふくやま市民交流会館

福山市丸之内一―九五

**参加費** 千円 **定員** 五十名

**申込締切** 十一月十一日二十三時半

※連絡先 [hiroshima@mahoroba-ed.org](mailto:hiroshima@mahoroba-ed.org) (松田)

